


コミュニケーション能力の育成をめざして ～自律した学習者を育てる～

平成27年度鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウム基調講演

太田光春 (OTA Mitsuharu)
文部科学省 初等中等教育局 視学官

平成32年度より全面実施の新学習指導要領において、中学年の外国語活動は必修化及び高学年の外国語は教科化され、高学年では「身近なことについて基本的な表現によって『聞く』『話す』に加え、『読む』『書く』の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う」とされます。

そこで、今回のシンポジウムでは、文部科学省 初等中等教育局 視学官 太田光春 氏の「コミュニケーション能力の育成をめざして ～自律した学習者を育てる～」の基調講演を行っていただきました。



コミュニケーション能力の育成を目指して ～自律した学習者を育てる～

鳴門教育大学小学校英語教育センター基調講演

平成27年11月7日(土)
文部科学省初等中等教育局
視学官 太田光春

高校生の心と体の健康に関する調査報告書（財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所 2011年3月:4月22日使用許諾）からの抜粋①

問30 1) 私は価値のある人間だと思う

	日本	米国	中国	韓国
1. 全くそうだ	7.5	57.2	42.2	20.2
2. まあそうだ	28.6	31.9	45.5	54.9
3. あまりそうではない	46.0	6.4	10.2	20.4
4. 全然そうではない	16.7	3.2	1.8	4.3
無回答	1.3	1.3	0.3	0.2

高校生の心と体の健康に関する調査報告書（財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所 2011年3月:4月22日使用許諾）からの抜粋②

問30 6) 私は努力すれば大体のことができる

	日本	米国	中国	韓国
1. 全くそうだ	8.4	60.0	40.1	18.2
2. まあそうだ	36.0	29.2	48.7	65.5
3. あまりそうではない	41.5	7.9	9.4	14.7
4. 全然そうではない	12.8	1.6	1.4	1.4
無回答	1.3	1.3	0.3	0.2

高校生の心と体の健康に関する調査報告書（財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所 2011年3月：4月22日使用許諾）からの抜粋③

問30 7) 私ができることはいっぱいある

	日本	米国	中国	韓国
1. 全くそうだ	10.1	63.7	37.2	13.7
2. まあそうだ	26.8	26.3	44.1	56.2
3. あまりそうではない	46.6	7.3	16.3	27.8
4. 全然そうではない	15.2	1.3	2.1	2.0
無回答	1.3	1.4	0.3	0.2

高校生の心と体の健康に関する調査報告書（財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所 2011年3月：4月22日使用許諾）からの抜粋④

問30 15) 自分が優秀だと思う

	日本	米国	中国	韓国
1. 全くそうだ	4.3	58.3	25.7	10.3
2. まあそうだ	11.1	29.2	41.3	36.5
3. あまりそうではない	37.9	8.6	26.4	43.1
4. 全然そうではない	45.3	2.6	6.3	9.8
無回答	1.3	1.4	0.3	0.3

問33 3) 私は先生に優秀だと認められている

	日本	米国	中国	韓国
1. 全くそうだ	2.2	40.2	12.1	6.2
2. まあそうだ	15.9	41.5	42.7	34.2
3. あまりそうではない	40.9	11.3	35.9	42.5
4. 全然そうではない	39.1	4.8	8.9	16.6
無回答	2.0	2.2	0.4	0.5

Can you see the difference?

7

1. The mediocre teacher tells.
2. The good teacher explains.
3. The superior teacher demonstrates.
4. The great teacher inspires.

(by William Arthur Ward, an American philosopher & educator)

ありがちだけど

8

Ends と Means を混同しない

Do you take yourself seriously?

Do you take your students/task seriously?

Every child matters!

誰もが大切！

教育基本法(平成18年12月22日公布・施行)

10

第1条 (教育の目的)

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

競争 v s 協同

11

1. 競争相手は → Potentials

2. 比べて良いのは → What you were

知識基盤社会において大切なこと

生涯にわたり学び続けること！

平成20年1月17日中央教育審議会答申

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」
(P22「『生きる力』という理念の共有」からの抜粋)

第一は、変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子どもたちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力が「生きる力」であるということである。これからの学校は、進学や就職について子どもたちの希望を成就させるだけではその責任を果たしたことにはならない。

学校教育法(昭和22年法律第26号)

第30条 (略)

② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

知っていること VS 使えること

15

1. 包丁の話し
2. 楽器の話し
3. 車の話し

小学校学習指導要領(平成20年文部科学省告示第27号)

※ 中学校, 高等学校, 特別支援学校においても同様の規定あり。

第1章 総則

第1 教育課程編成の一般方針

1 (略)

学校の教育活動を進めるに当たっては, 各学校において, 児童に生きる力をはぐくむことを目指し, 創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で, 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ, これらを活用して課題を解決するために必要な思考力, 判断力, 表現力その他の能力をはぐくむとともに, 主体的に学習に取り組む態度を養い, 個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際, 児童の発達の段階を考慮して, 児童の言語活動を充実するとともに, 家庭との連携を図りながら, 児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

中学校学習指導要領(総則)新旧対照表②

改訂後	現行
<p>1 (略)</p> <p>学校の教育活動を進めるに当たっては, 各学校において, 生徒に生きる力をはぐくむことを目指し, 創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で, <u>基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ*1, これらを活用して課題を解決するために必要な思考力, 判断力, 表現力その他の能力をはぐくむとともに*2, 主体的に学習に取り組む態度を養い*3, 個性を生かす教育の充実に努めなければならない。</u>その際, <u>生徒の発達の段階を考慮して, 生徒の言語活動を充実するとともに, 家庭との連携を図りながら, 生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。</u></p>	<p>1 (略)</p> <p>学校の教育活動を進めるに当たっては, 各学校において, 生徒に生きる力をはぐくむことを目指し, 創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で, <u>自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに, 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り, 個性を生かす教育の充実に努めなければならない。</u></p>

学習指導要領の理念

18

■ 現行学習指導要領の理念は「生きる力」をはぐくむこと

「生きる力」:

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、
- たくましく生きるための健康や体力 など

■ 「知識基盤社会」の時代において「生きる力」をはぐくむという理念はますます重要

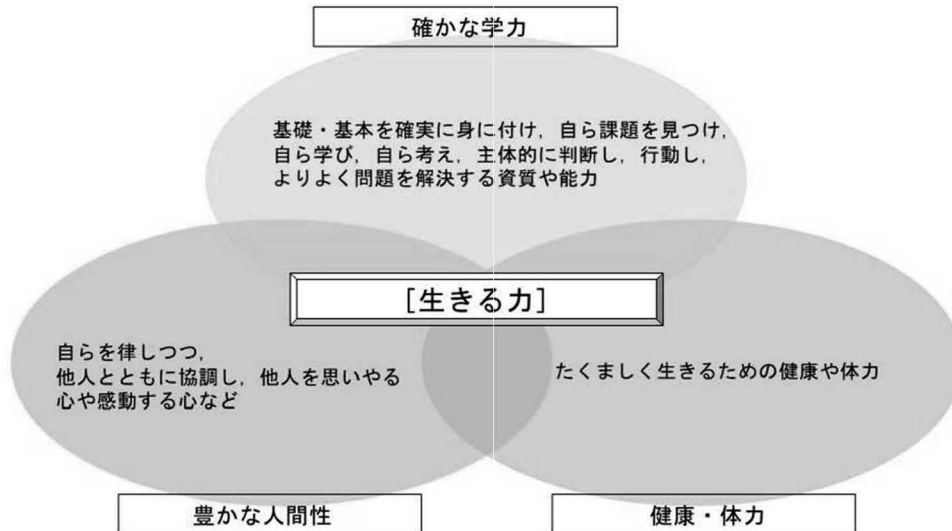
■ 教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定



**今回の改訂においては、これまでの理念を継承し、
教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成**

学習指導要領の改訂①

<学習指導要領の理念>



19

中学校学習指導要領(総則)新旧対照表①

改訂後	現行
<p>第1款 教育課程編成の一般方針</p> <p>1 各学校においては、<u>教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い</u>、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達の段階及び特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、<u>これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。</u> (略)</p>	<p>第1款 教育課程編成の一般方針</p> <p>1 各学校においては、法令及びこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達の段階及び特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとする。 (略)</p>

20

言語活動の充実について

高等学校学習指導要領

5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

(1) 各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

21

言語活動の充実とは

Teacher-centered →Learner-centered (パラダイムシフト)

野球にたとえば、・・・

A shift of focus from the teacher to the student, from teaching to learning

アクティブ・ラーニング

22

学習評価について

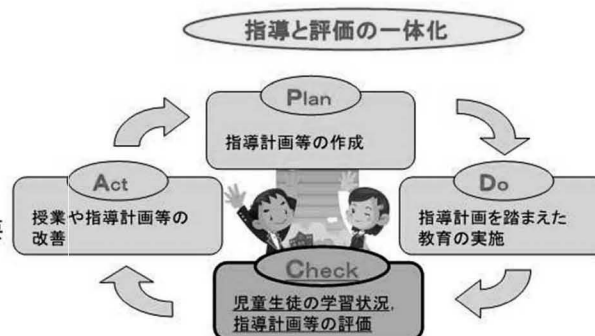
学習評価の意義・目的

学習評価：

- 児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有する
- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要

- 学習指導と学習評価のPDCAサイクルは、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要

- 児童生徒や保護者にとっても学習評価は重要
【児童生徒】自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機
【保護者】家庭における学習を児童生徒に促す契機



学習評価の意義

1. 生徒の学びが変わる → 学習の指針、学習者としての自信
2. 教師の指導が変わる

- * 人間ドックの数値の表すもの
- * 胃の五分之一

→ 評価の妥当性、信頼性

24

観点別学習状況の評価の在り方

新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

新しい観点

「関心・意欲・態度」 「思考・判断・表現」 「技能」 「知識・理解」

※ 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

学力の3つの要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能

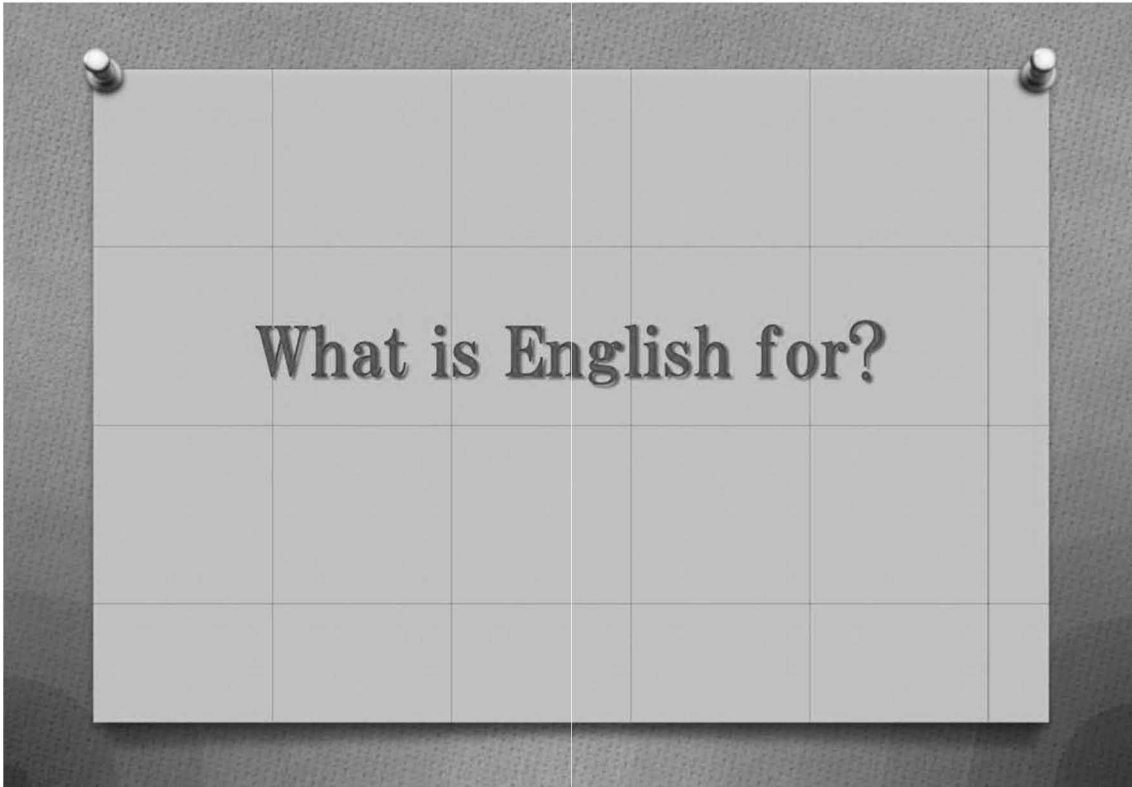
➡ 「技能」 及び 「知識・理解」 で評価

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

➡ 「思考・判断・表現」 で評価

主体的に学習に取り組む態度

➡ 「関心・意欲・態度」 で評価



**Common International Language
= a Vehicle for Communication**

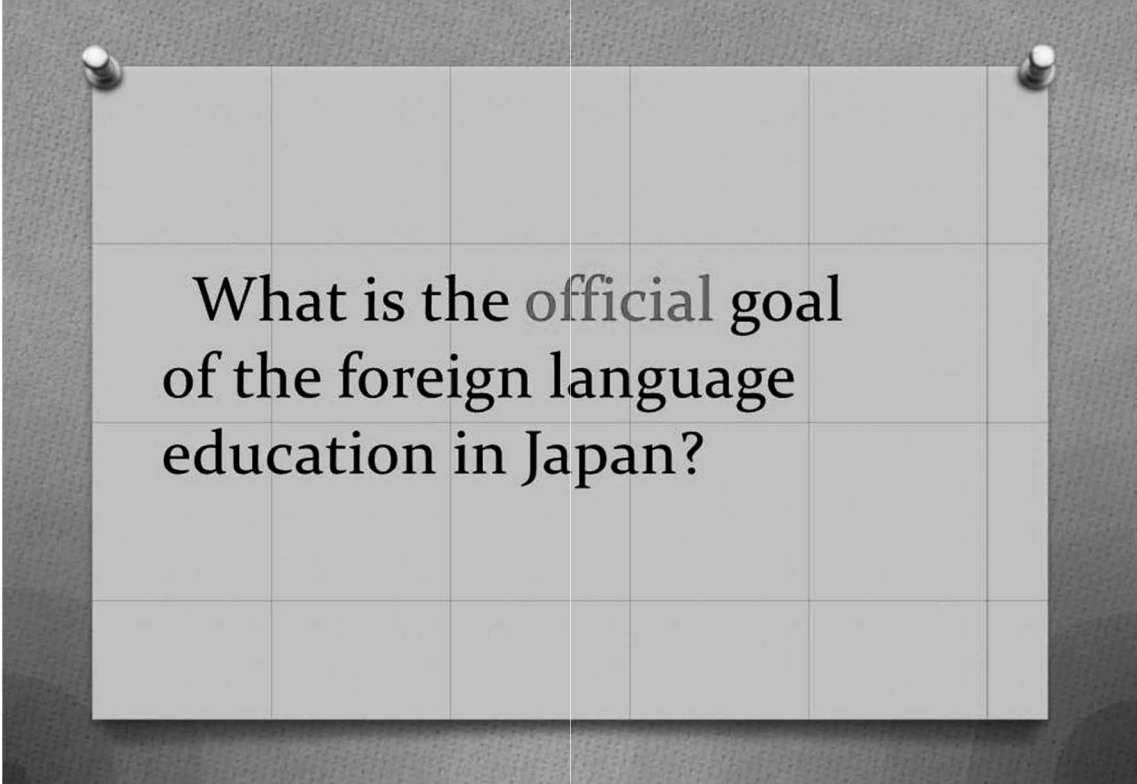
INNER : 320-380
OUTER : 150-300
EXPANDING 100-1000
(Braj Kachru, Sociolinguist:1985)



INNER : 500 --- Functional nativeness
High Proficiency
Low Proficiency

What's happening in Asian countries such as China, Korea and so forth?

Will the situation change in the next 20 years?



What is the official goal
of the foreign language
education in Japan?

The Course of Study for Primary School Education:
Chapter 4: Foreign Language Activities

○ (平成20年3月告示)

(Overall Objective)

To form the foundation of pupils' communication abilities through foreign languages while developing the understanding of languages and cultures through various experiences, fostering a positive attitude toward communication, and familiarizing pupils with the sounds and basic expressions of foreign languages.

The Course of Study for Lower Secondary School
Education: Section 8 Foreign Languages

(平成20年3月告示)

(Overall Objective)

To develop students' basic communication abilities such as listening, speaking, reading and writing, deepening their understanding of language and culture, and fostering a positive attitude toward communication through foreign languages.

The Course of Study for Upper Secondary School
Education: Section 8 Foreign Languages

(平成21年3月告示)

(Overall Objective)

To develop students' communication abilities such as accurately understanding and appropriately conveying information, ideas, etc., deepening their understanding of language and culture, and fostering a positive attitude toward communication through foreign languages.

English Communication III



(Objective)

To enhance students' abilities such as accurately understanding and appropriately conveying information, ideas, etc., and enable them to use such abilities in their social lives, while fostering a positive attitude toward communication through the English language.

English Expression I



(Objective)

To develop students' abilities to evaluate facts, opinions, etc. from multiple perspectives and communicate through reasoning and a range of expression, while fostering a positive attitude toward communication through the English language.

Article 3-3

- A. Contemporary standard English should be used. At the same time, consideration should be given to the reality that different varieties of English are used to communicate around the world.
- B. Grammar instruction should be given as a means to support communication through effective linkage with language activities.
- C. Phrases, sentence structures, grammatical items, etc., required for communication should be taught in a way applicable to real-life situations, without centering instruction on the distinction of terms and usage, etc.

Article 3-4

When taking into consideration the characteristics of each English subject, classes, in principal, should be conducted in English in order to enhance the opportunities for students to be exposed to English, transforming classes into real communication scenes. Consideration should be given to use English in accordance with the students' level of comprehension.

What are the Realities?

- ◆ There are teachers who pay attention to entrance examinations rather than to communication abilities.

What are the Realities?

- ◆ There are teachers who believe learned knowledge of grammar is useful even in speaking.
- ◆ There are teachers whose teaching is far from student-centered and rarely includes communication activities.

What are the Realities?

- ◆ There are teachers who believe it is necessary to translate every English word into Japanese for understanding.
- ◆ There are teachers who don't provide students with sufficient exposure to English and the opportunities to use it, which are essential to acquire communication abilities in English.

New English Subjects (高等学校)

- **Basic English Communication (2)**
- **English Communication I (3) required**
- **English Communication II (4)**
- **English Communication III (4)**
- **English Expression I (2)**
- **English Expression II (4)**
- **English Conversation (2)**

Teachers use English in order to

- Organize lessons
- Provide sound models
- Help and promote students' understanding
- Scaffold: help students complete language activities successfully
- Give motivational feedback

Encourage students to use interactional strategies

- 1 Appeal for help
- 2 Asking for repetition
- 3 Asking for clarification
- 4 Asking for confirmation
- 5 Expressing non-understanding

Key Ingredients for Language Acquisition

- Exposure
 - Experience
- language use & interaction

授業改善のポイント

1. Children like what they are good at.
2. Children learn what they live.
3. Intensity > Quality > Quantity

(強さ)を伝えることの大切さ

- * 扱う教科が好きだと思える強さ(専門分野にかける情熱)
- * 生徒の学びの可能性を信じる強さ

Last but not least

- Believe in yourself and believe in students.
- Tell students we have to tolerate ambiguity and take risks in the process of language acquisition.

グローバル人材の育成 ～政府の主な方針～

◆ 教育再生実行会議「これからの大学教育等の在り方について」（第三次提言）（平成25年5月28日）（抜粋）

1. グローバル化に対応した教育環境づくりを進める。
- ③ 初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育を充実する。
- 国は、小学校の英語学習の抜本的拡充（実施学年の早期化、指導時間増、教科化、専任教員配置等）や中学校における英語による英語授業の実施、初等中等教育を通じた系統的な英語教育について、学習指導要領の改訂も視野に入れ、諸外国の英語教育の事例も参考にしながら検討する。国、地方公共団体は、少人数での英語指導体制の整備、JETプログラムの拡充等によるネイティブ・スピーカーの配置拡大、イングリッシュキャンプなどの英語に触れる機会の充実を図る。

【参考】日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）（抜粋）

- 第Ⅱ、一、2. ⑦ グローバル化等に対応する人材力の強化
- 初等中等教育段階からの英語教育の強化
- ・ 小学校5、6年生における外国語活動の成果を今年度中に検証するとともに、小学校における英語教育実施学年の早期化、指導時間増、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について、今年度から検討を開始し、逐次必要な見直しを行う。

◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

基本施策16 外国語教育, 双方向の留学生交流・国際交流, 大学等の国際化など, グローバル人材育成に向けた取組の強化

【基本的考え方】

- グローバル化が加速する中で, 日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として, 豊かな語学力・コミュニケーション能力, 主体性・積極性, 異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成が重要である。
- このため, 「社会を生き抜く力」の確実な養成を前提とし, 英語をはじめとする外国語教育の強化, 高校生・大学生等の留学生交流・国際交流の推進, 大学等の国際化のための取組(秋季入学に向けた環境整備, 海外大学との国際的な教育連携等)への支援, 国際的な高等教育の質保証(単位の相互認定, 適切な成績評価等)の体制や基盤の強化等を実施するとともに, 意欲と能力ある全ての日本の若者に, 留学機会を実現させる。

【主な取組】

16-1 英語をはじめとする外国語教育の強化

- ・新学習指導要領の着実な実施を促進するため, 外国語教育の教材整備, 英語教育に関する優れた取組を行う拠点校の形成, 外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる, 戦略的な英語教育改善の取組の支援を行う。また, 英語教育ポータルサイトや映像教材による情報提供を行い, 生徒の英語学習へのモチベーション向上や英語を使う機会の拡充を目指す。
- ・また, 小学校における英語教育実施学年の早期化, 指導時間増, 教科化, 指導体制の在り方等や, 中学校における英語による英語授業の実施について, 検討を開始し, 逐次必要な見直しを行う。
- ・教員の指導力・英語力の向上を図るため, 採用や自己研鑽等での外部検定試験の活用を促すとともに, 海外派遣を含めた教員研修等を実施する。

◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)

「社会を生き抜く力」に加えて, 卓越した能力※を備え, 社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材, 社会の各分野を牽引するリーダー, グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材, とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて, 実践的な英語力をはじめとする語学力の向上, 海外留学者数の飛躍的な増加, 世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

(※能力の例: 国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性, チャレンジ精神, 異文化理解, 日本人としてのアイデンティティ, 創造性など)

【成果指標】

<グローバル人材関係>

①国際共通語としての英語力の向上

- ・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階: 英検3級程度以上, 高等学校卒業段階: 英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%
- ②英語教員に求められる英語力の目標(英検準1級, TOEFL iBT80点, TOEIC730点程度以上)を達成した英語教員の割合(中学校: 50%, 高等学校: 75%)

英語教育ポータルサイト「えいごネット」について

○英語教育ポータルサイト「えいごネット」 <http://www.eigo-net.jp/>

<コンテンツ例>

(1)教材・素材を探す

- やさしく読める英語ニュース
- 世界で活躍する人々のインタビュー
- 映像教材
- 聞く活動、話す活動、読む活動、書く活動の教材

活動ベースでの教材探し！

(2)事例・指導案を探す

- 文部科学省公式サイトに掲載資料
(例)Hi, friends!の指導案、授業実践DVDの指導案
- 教育委員会等で掲載している指導案

学校種別に検索可能！

(3)教育のいまを知る

- 教科調査官等、専門家のインタビュー
- 都道府県・指定都市教育委員会による取組紹介
(リレー連載)
- 留学関連情報
- 大学の取組(英語を使って専門的な学びを広げる)

実践に活かせる情報
留学・大学での学びを知る！

(4)指導力を向上させる

- 各種研修会情報
- 教育ニュース

自己研鑽に励む！

(5)生徒の学習意欲を高める

- 世界で活躍する人のインタビュー
- 生徒向けイベント
- 海外勤務経験者の出張授業
- 英語に関する試験情報

モチベーションを高める！

◆「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」を受けて、主に英語教育を担う教員を対象として情報提供を行うポータルサイトを開設

◆文部科学省の協力の下、(財)英語教育協議会(ELEC)が運営

